



下関市芸術文化祭「下関市小学校音楽祭」(10月24・25日)

2017.12 まちの語り ぶち★ きらり

勝山小学校 合唱部

テレビで見た方も多いと思いますが、10月8日に東京のNHKホールで行われた「第84回NHK全国音楽コンクール 全国コンクール」に出場し、昨年、今年と2年連続「銅賞」を受賞した勝山小学校合唱部を紹介します。

練習の基本はあいさつ

練習が始まる前に、勝山小学校の体育館を訪ねました。「こんにちは」と元気で気持ちの良いあいさつが体育館に響きます。合唱部のメンバーは3年生から6年生、男女合わせて67人です。部員が集合し、先生が来るまでにそれぞれ準備運動の腹筋を済ませ、練習が始まるのを静かに待ちます。翌日に市芸術文化祭「下関市小学校音楽祭」を控え、少し緊張した雰囲気の中で練習が始まりました。基本的に練習は毎朝授業が始まる前と、週3回程度、昼休みに音楽室などで行っています。歌詞を



朗読して歌の内容を理解し、それを部員間で共有することを大切に、声を出すだけではなく曲のイメージを膨らませます。

空気が変わるその一瞬

先生が指揮を執った瞬間、児童たちが奏でる歌声に圧倒！声量もさることながら、小学生の歌声がこんなにもきれいで引き込まれるとは、想像以上でした。表情も豊かに、一音一音大切に歌っているのが伝わります。一人ひとりの歌声が大きな力強いハーモニーとなったとき、練習会場の体育館の空気が一変しました。

児童の主体性を伸ばし育てる

顧問の堺先生は、以前勤務していた学校でも何度も合唱部を全国コンクールに導いた実績があります。児童に何を教えているのか、こつを聞きました。まずは、声を出すこと。「あとは、「児童のやる気を引き出す言葉を掛けること」。練習中は先生が部員一人ひとりに教えるのではなく、上級生が下級生に手本を見せながら教えます。下級生は声の出し方はもちろん、

あいさつや生活態度を学びます。音楽だけではなく、児童の主体性が育っているのを感じました。

勝山っ子の思いを紡ぐハーモニー

合唱部の部長、藤井美帆さん(6年生)は、聞いてくれている人、見えてくれている人に思いが伝わるように歌っています。全国コンクールに出場、銅賞を受賞できて、支えてくれている人、協力してくれた人に感謝の気持ちでいっぱいです」と話してくれました。

「コンクールに出場し、上位入賞するには、楽しいだけでは目指せません。上位を目指すなら、勝ちに行く」という気持ちも大切です」と堺先生。

他者と比べるのではなく、今の仲間たちでベストを尽くすために、今日も練習に励みます。

勝山小学校合唱部の歌声を聞いてみませんか

- 「下フィル第13回定期演奏会」ゲスト出演=12月3日(日)午後2時/ドリームシップ海のホール/500円(小学生以下無料)
- 「下関人権フェスティバル」オープニングイベント出演=12月9日(土)午後1時/アブニール



下級生に手本を見せる上級生



児童たちに教える堺先生

